ニュースレター
2019年6月5日
積 水 ハ ウ ス 株 式 会 社
ﾀﾞｲｱﾛｸﾞ･ｲﾝ･ｻﾞ･ﾀﾞｰｸ･ｼﾞｬﾊﾟﾝ

完全に光を遮断した空間での暮らしを体験する ダイアログ・イン・ザ・ダーク「対話のある家」 好評の夏休み限定プログラム　6月6日チケット先行販売開始

自由研究応援企画として、点字教室も開催

積水ハウス株式会社は、ダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパン（本社：東京都中央区、代表：志村真介）との共創プログラム、ダイアログ・イン・ザ・ダーク「対話のある家」にて、夏休み限定プログラム「僕たちの夏休み」を７月4日（木）から8月26日（月）まで開催し、6月6日（木）正午よりWEBにてチケット先行販売を開始します。

これまで世界41カ国以上で開催、800万人以上が体験した暗闇のソーシャルエンターテイメント「ダイアログ・イン・ザ・ダーク（以下、DID）」。
参加者は完全に光を遮断した空間の中へグループを組んで入り、暗闇のエキスパートであるアテンド（視覚障がい者）のサポートのもと、中を探検し、さまざまなシーンを体験します。暗闇を子どもの教育に活かす動きが世界で広がるなか、より多くの親子に体験してもらおうと、2016年より夏休み限定の親子向けプログラムを開催しています。

通常プログラム「僕たちの夏休み」の期間中、一部日程で、自由研究応援企画として暗闇を案内したアテンド（視覚障がい者）から点字も学ぶ「夏休みくらやみ教室」も開催します。また、一人で参加申し込みの方が集う「一期一会の回」を5回限定で開催します。子どもから大人まで楽しめる非日常体験をこの夏経験してみませんか？

「僕たちの夏休み」「触れる、感じる、見えてくる夏休みくらやみ教室」

今年の夏休み限定プログラムのテーマは、「僕たちの夏休み」。“おじいちゃんの家“を訪れ、縁側や畳、線香花火といった、夏のアイテムを視覚以外で体験します。親子で暗闇を体験した後「触れる、感じる、見えてくる夏休みくらやみ教室」で「点字板」と「点筆」を使って、点字を打つワークショップに挑戦。暗闇を案内したアテンド（視覚障がい者）と一緒に自分の名前を点字で打つ体験をします。暗闇体験で新しい気づきを得て、子どもたちの記憶に残る学びの場となることを目指します。
また、一昨年から始まった「一期一会」ユニットは、 DIDの魅力の一つ「初対面の人ととても仲良くなれる」を感じられる体験として好評を得て、前回より、期間中の開催を5回に拡大しています。

積水ハウス株式会社　広報部
（大阪）TEL　06-6440-3021　　（東京）TEL　03-5575-1740
（本社）大阪市北区大淀中1-1-88　梅田スカイビル　タワーイースト

<ダイアログ・イン・ザ・ダーク「対話のある家」開催概要>

	第26回（夏休み）プログラム 「僕たちの夏休み」	自由研究応援企画 「触れる、感じる、見えてくる 夏休みくらやみ教室」 （第26回プログラム＋点字体験）
開催場所	積水ハウス「SUMUFUMULAB（住ムフムラボ）」 グランフロント大阪　北館ナレッジキャピタル4階（大阪市北区大深町3番1号）	
開催期間	7月4日（木）～8月26日（月）の40日間 (火曜・水曜定休) 上記期間のうち、 ＜一期一会の回＞一人のみで申し込み可 7月5日（金）7日（日）15日（月・祝） 8月18日（日）25日（日） 各日17:00～	7月21日（日）22日（月）28日（日） 29日（月） 8月４日（日）５日（月） 11日（日・祝）12日（月・振休） 18日（日）19日（月） （合計10日間）
開催時間	11：00より1日5回	12：30より各日1回
参加料金	大人3,500円／学生2,500円／ 小学生1,500円　（税込）	大人4,000円／学生3,000円／ 小学生2,000円　（税込）
所要時間	70分	90分（プログラム＋点字体験）
参加人数	各回・6人まで	
チケット発売	6月6日（木）12：00～	
申込方法	予約状況・申込はWEBから　http://www.sumufumulab.jp/did/	
問い合わせ	「対話のある家」お問い合わせ事務局 0120-39-9683（11：00～18：00 ※土日祝日除く）	

「子どもたちの教育に、ダイアログ・イン・ザ・ダークを」

一般社団法人 ダイアローグ・ジャパン・ソサエティ代表理事 志村 季世恵

ダイアログ・イン・ザ・ダークは、1988年にドイツで、哲学博士アンドレアス・ ハイネッケが発案したソーシャルエンターテイメントです。参加者は完全に光を遮断した空間の中へグループを組んで入り、暗闇のエキスパートであるアテンド（視覚障がい者）のサポートのもと、中を探検し、さまざまなシーンを 体験します。子どもたちがダイアログ・イン・ザ・ダークを体験すると、驚くことが起こります。内気な子が積極的になったり、時にはいじめられっ子がいじめっ子の手を引いてサポートしたりします。視覚障がい者とも、すぐに対等な関係を築きます。お母さんも、先生も、今まで全く知らなかった、たくましくて優しい姿がそこにはあります。ヨーロッパ、イスラエル、アジア各国ではDIDが課外授業に取り入れられ、多くの子どもたちが体験する仕組みができています。世界の約６割の参加者が子どもたちです。日本でも、もっと多くの子どもたちに体験をしてほしいと思っています。DIDの暗闇体験を経験した彼らが大人になったときに、きっと社会は大きく変わると思っています。

＜ＤＩＤと積水ハウスの共創プログラム「対話のある家」について＞

積水ハウスは「生涯住宅」の思想のもと、長年にわたり「スマートユニバーサルデザイン」などの研究活動を続けてまいりました。その一環として、「感じる力」「関係性の回復」「多様性を認める」を目的に、対話する場を提供し続けるDIDとの共創プログラムDID「対話のある家」を実施。「純度100%の暗闇」の中で、住まいにおける様々な生活シーンを体験し、日常では得られない気づきやコミュニケーション向上の機会を提供します。

さらに、ブランドビジョン「SLOW ＆ SMART」を実現する、住まいの快適性を深化させる研究にも活かしてまいります。

見て触れて楽しめる
「DID 対話のある家」の展示コーナー

<これまでの開催実績>

●開催日数：2013年4月26日から開始、開催日数は計984日間（2019年4月8日現在)
●参加者数：約19,296人／性別：男性40%、女性60%
●年代：10代以下8%、20代28%、30代27%、40代23%、50代11%、60代以上3%
●クリスマス、お正月など、季節ごとに毎回異なるプログラムを開催。体験するたびに新しい発見が得られるとの声も多数いただいております。

<これまでの体験者の声>

●はじめの緊張感から、助け合い頼りあうことで心の垣根がなくなり、いろいろな夏の音に敏感になる感覚が心地よかったです。子ども達が真っ先に対応して物おじせずに話すのも印象的でした。体験によって、その瞬間瞬間に成長するのだと気づきました。（44歳 女性）

●くらくても安心できた。サポートしてくれて、なによりも、声がとてもあたたかかったから、何かに守られているかんじだった。（11歳 男子）

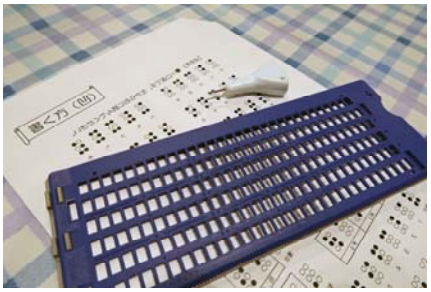
●普段どれだけ目で勝手な判断をしているのか考えました。人との繋がり、物との繋がりに安心感を覚えました。体験で「大事なことは目に見えない」と感じました。（22歳 男性）

●ずっと真っ暗の環境が初めてだったのでワクワクとドキドキでいっぱいでした。いつも当たり前に見て、聞いているはずのものが、まったく新しいものに感じて不思議でした。（18歳 女性）

●五感のうちのひとつを使わないだけで、これほど世界が新鮮になるのだと思った。見ず知らずの人同士が共感しながら同じ時間を過ごす。人は理解しあえると改めて確認した。（50歳 女性）

●DIDでなければ決して体験できないような、長く記憶に残るすばらしい経験でした。完全なDARKNESSの経験は、初めてです。不思議なことに気持ちがやさしく、そして明るくなりました。DARKNESS BRINGS ME BRIGHTNESS AND HAPPINESS. それを一番大切な人と経験できて良かったです。（64歳 男性）

●中学生の息子２人、家での会話も少なくなり淋しかったのですが、いつもと違う環境の暗闇の中では声をかけ合ったり触れあい支えたり、離れた距離が戻った気がしました。（43歳 女性）

●暗闇の中では、誰かの声があるだけですごく安心した。一人で生きているようで、そうではない事を実感した。（40歳 男性）

「夏休みくらやみ教室」点字体験の様子